

## 松本市基幹相談支援センター会議・研修会報告

会議・研修会名 令和8年度 第2回支援研究部会	開催日：令和8年6月2日（火） 時 間：10:30～11:30
参加者構成機関名 ケ・セラ社会福祉士事務所(欠)、第2コムハウス、障がい者相談支援センターあいほっと、障がい者相談支援センター中信、松本市社会福祉協議会グループホーム水汲、結いの街、松本市こども発達支援課 松本市障がい者基幹相談支援センター(事務局)	計9名

### 会議内容

#### 1. 各連絡会からの報告

##### (1) 生活介護事業所連絡会

生活介護事業所連絡会では、各事業所の日々の活動内容や余暇支援、おすすめの外出スポットの共有、活動内容をチームでどのように考えるかなどについて意見交換をし、参加者は11名であった。

協議の中では、「日々の活動内容を継続的に組み立てることが難しい」といった課題が共有されたほか、活動の工夫として牛乳パックを活用したジェンガ作りなど、実践的なアイデアも紹介された。

これらの意見を踏まえ、今年度の連絡会は以下の内容で進めることとなった。

- ・ 第2回（9月予定）：「支援の困りごとを分かち合おう」をテーマに開催
- ・ 第3回：各事業所の好事例を共有する会

##### (2) 居宅連絡会

居宅連絡会では、今後勉強会の開催を予定していることが報告された。

勉強会では、サービス支給決定に関する制度や運用についても取り上げる予定であり、行政にも協力を依頼しながら内容を検討していく。

##### (3) 強行プロジェクトへの参加について

やさしいマップづくりの取り組みについて情報共有が行われた。現在約40か所の情報が集まっている。その情報をカテゴリー分けや情報の整理・絞り込みを進めていくことを検討している。

また、入所施設同士による座談会の開催案も報告された。入所施設が抱える課題や現状について率直に意見交換を行う場とし、施設側にも丁寧な説明をすることを共有する。

そこで、開催にあたっては、事前に各施設を訪問し、趣旨説明を行う予定である。さらに、構成員の変更があっても継続的に取り組めるよう、3か年計画として事業を進める案も共有された。今後策定される福祉計画との整合も図りながら引き続き検討していくこととなった。

(4) 医療的ケア児(以下、医ケア)についての取り組み

医ケアに関する事業所連絡会の開催に向け、各事業所への訪問と医ケア児・者の利用状況の調査を進めていることが報告された。

一方で、発達障害と医療的ケアが併存するケースの受け入れに難しさを感じている事業所も少なくなく、すでに受け入れを行っている事業所の実践や工夫を共有することに意義があるとの意見が出された。

今後もアンケート調査を継続し、9月頃の開催に向けて準備を進めることとなった。

(5) グループホーム連絡会

昨年度開催したグループホーム連絡会では、世話人の悩みや課題について意見交換を行ったが、「もっと話をする時間がほしい」との意見が多く聞かれた。そのため、今後はより自由に意見交換できる場を設けることが検討された。

- サービス管理責任者同士による支援の統一に向けた取り組みを共有すること
- 世話人の悩みを組織的に把握・支援できる体制づくりについて
- 管理者やサービス管理責任者を対象とした風通しの良い組織をマネジメントする学びの場

開催は年間3回開催を目指すことも検討され、夏頃にも1回開催する方向で検討することとなった。

2. 議題・課題について

(1) 悩みや課題を相談できる場の不足

各連絡会に共通する課題として、

- 「悩みや課題を気軽に相談できる場が少ない」という意見が挙げられた。
- グループホームの世話人については高齢化が進んでおり、相談先そのものを知らない場合もある。また、スマートフォンやインターネットの利用が難しい方も少なくない。
- 事業所内においても職員の悩みを拾い上げる仕組みや相談体制が十分に整っていない現状が共有された。

(2) 他事業所の取り組みや現状を知るための学びの場について

- 「発達障害への支援やかかわり」など、多くの事業所に共通するテーマについて横断的に学ぶ機会があっても良いのではないか。また、社会福祉協議会では、「発達障害とは」をテーマとした研修を企画していることも紹介された。

(3) 開催会場について

今後の勉強会や連絡会の日程を確定するにあたり、会場の確保や調整について確認が行われた。複数の連絡会による合同開催や横断的なテーマを扱う場合には、参加人数を見据えた会場規模の検討も必要であることが確認された。

### 3. 開催内容と進め方について

研修や勉強会は、参加者が自分事として捉えやすい横断的なテーマ設定が重要であるとの意見が出された。「私たちがどのように受け入れ、支援できるか」という前向きな視点で取り組むことが望ましいとの意見が共有された。

また、事前に参加者から質問や困りごとを募り、それに対して回答や意見交換を行う形式も有効ではないかとの提案があった。

以上